

Fusyo Collaboration letter



12月18日 No.30 文責 廣田 秀俊

笑顔で発信 附属小からの Speaking in English

「緊張する」「ちゃんと言えるかな」。12月12日に大分大学の留学生在が本校に来てくれました。留学生の出身国は、イタリア・イギリス・フランス・フィンランド・ガーナなど、国際色豊かです。留学生の自己紹介に耳を傾け、用意してくれていた映像に目をむけながら、前のめりになって受けとめていました。



この日は3, 4, 5年生の教室で英語での会話のやり取りを行っていきました。6月にも同じ学年で実践しましたが、留学生のメンバーは少し入れ替わっています。初めて会う人に、英語を使って話をするのに、ドキドキが止まらないようです。



自分の住んでいる“まち”を紹介する3年生。My name～.から始まり、好きな場所をI like～.を使ってiPadで示していきました。公園やデパート、飲食店やケーキ屋、神社など、自分の住むまちの紹介から、Do you like～?とその場所に関係のある事柄を質問する姿がありました。



「素敵な場所を伝えることができ、留学生の人たちと交流ができて良かったです」とほっとした気持ちを感想で伝えてくれました。

4年生は、大分大学の留學生のために、おいしいオリジナルのアイデアを広げてレシピを伝えようと、挑戦していました。



ワークシートに書き込んだ、Sandwich's name.材料のFood.の数々。

Original sandwichにはたくさんのネーミングが並びました。

スーパーミントパーティーサンド・デリシャスフルーツサンド・ミートモリモリサンド。丁寧に話を聞いてくれる留学生に英語を使って一つ一つ説明していきました。



「初めて会った人には、恥ずかしさがあったけど、目と目を合わせて笑顔で伝えることができました」と充実した時間をふり返っていました。



5年生は“大分県内の自分のおすすめの場所を紹介しよう”というテーマで臨みました。実はこの週の初めに、札幌市の5年生とも、同じ題材で交流をしていました。北海道の魅力もたくさん知ることができました。この日に各国の魅力も聞くことができ、色々な場所への興味が一段と増していきました。

子供たちが今回の授業をきっかけに、北海道・イタリア・イギリス・フランス等、全国・全世界で活躍する日も、そう遠くないことのように思います。

